

わか草

花火を楽しむ夕べ



第44回 平成29年10月1日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂3-3-25



綺麗に吹き上がる花火を鑑賞



盆踊りのようす

今年も恒例行事である「花火を楽しむ夕べ」が八月に開催されました。昨年は、花火の前に縁日やゲームを行いました。今年は「お楽しみ会」としてみんなで楽しめるように「景品交換」と大きな太鼓を囲んで「盆踊り」を行いました。景品交換ではキラキラと光る「ライト」や「扇子」、「ブレスレット」を貰いました。また、多種多様な花火と、BGMには今年話題になった映画「ラ・ラ・ランド」の主題歌をかけ、とても盛り上がることができました。今年は天候に左右され、小雨での実施もあり、全てのプログラムが楽しめない日もありましたが、何とか打ち上げ花火だけでも実施したいという職員・家族・利用者様の思いが通じたおかげで無事に終えることができました。花火の行事にご協力頂き誠にありがとうございました。

(三階南 五十嵐)

(参加されたボランティアさんから) 通常月一回のボランティアですが、この時ばかりは時間調整し、お手伝いを増やします。いつもそばにいる利用者さんが浴衣姿、髪飾りも和風に模様替え、家族の皆さんも一緒になって楽しむ気色を見るのが好きです。



盆踊りを盛り上げるために、大きな太鼓を叩きました

一日看護体験

毎年、看護師をめざす高校生および社会人を対象に看護の理解と関心を深め、進路選択の一助として一日看護体験を受け入れています。今年度は、七月二十四日、二十八日の二日間にあわせて高校生六名の応募がありました。体温・脈拍・血圧測定、車椅子介助、移乗の見学等、実際に体験することで療育という看護の魅力を感じて頂けたと思います。参加者全員が、看護の道に進みたいという気持ちを強く感じたようでした。



看護体験に参加した
高校生のみなさん

いつの日か看護の現場で一緒にできることを期待してやみません。

(看護科長 山田)



裏方の皆さん、ご苦労様です。



手持ち花火に大満足



あの頃のよもやま話

リハビリテーション科 主査

言語聴覚士 中沢 真実

今だから話せることですが：

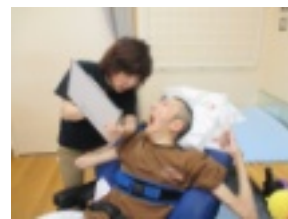
「聞いていた条件と違います！朝はいくらでも早く出勤しますから、なんとか十七時三十分で帰らせてください！」これは、十二年前の三月のある晩、新宿都庁の中に設けられた東部療育センター開設準備室で、私が初代事務長に直談判した時のことばです。

職場が変わるにあたり、家を引越す、保育園の転園手続きも終えてやれやれと思っていたら、都庁勤務期間の終業時刻は、当初聞いていた十七時十五分ではなく、十七時四十五分と連絡が来たのです。さあ大変！その時間では、時刻表をどうひっくり返しても、十九時迄の保育園のお迎えに間に合わない！かくして、冒頭の無謀な直談判に至ったわけです。今思えば、出会って間もない事務長に臆面もなく、**なん**と無茶なことを、お願いしたのでしよう！認めてもらえるとはいけませんでしたが、私も必死だったのですね。若気の至り（決して若くはあり

ませんでしたが）ともいえる直談判でしたが、結果的には有馬前院長はじめ皆様の温情により、超特例として、当初示された時間での勤務を認めただきました。そのお陰で、今も**わ**たしは東部で勤務することができているのです。本当に今だから言える内緒の話ですが、当時の幹部の方には感謝の気持ちでいっぱいです。

空気の流れる施設

都庁勤務期間は開設準備の事務仕事メインになると聞いた時、内心「やったー！憧れのOLライフだ」と喜びました。しかし、二十年近く毎日臨床の場にいた身にとってデスクワークは苦行以外の何者でもなく、数日でギブアップ。会議中は猛烈な眠気が襲ってくるため、瞼にマジックで目玉を書こうかと本気で思っただけでした。そんな私にとっ



リハビリの様子
(利用者さんと中沢さん)

害児（者）施設を見学させていただくこと、そこで生活する利用者様とご家族の思い、そしてそれを支える職員の頑張りに圧倒されることもしばしばでした。そして更に正直な感想を申しあげると、施設によ

っては、頑張る職員の疲労感が影響していたのでしょいか、心なしか空気が硬く重く感じられるところもありました。外部の人が入り込みにくい、中に向かって閉じられていくような印象を受けることもありました。逆に、職員は同じように忙しく大変そうでも、どこか楽しそうに生き生きと働いていると感じる施設もありました。外からの見学者である私たちを自然な形で受け入れてくださる雰囲気現場です。

当時の他施設見学で私が学んだ最も大切なことは、この空気の違いだったかもしれせん。これからオープンする東部療育センターは、何年経っ

ても空気が重くならず、組織が硬くならず、外部の人が「新鮮な空気が流れている」と感じられる施設でありたいと思いました。重たい空気の中では、利用者の皆様にいいサービスを提供し続けられませぬ。さて、現在の東部はあの頃の私の思いに沿った施設になっているのでしょうか？

草創期

リハビリテーション科の都庁の準備室に参集したりハビリ関係者は、渡邊（わたなべ）裕一理学療法士（初代リハ科科長代理）、甲斐結城（あいむすむ）作業療法士（現リハビリ科科長）、金澤（かねざわ）恵実（けみ）心理指導員（現主任）と私の四人でした。それから二段階に分けてスタッフが増員され、全面開設の二〇〇六年四月には、ほぼ現在の規模のリハビリ科職員が揃いました。

様々な職場でキャリアを積



初代リハ科科長代理
渡邊 裕一理学療法士

んできた個性豊かな職員ばかりだったので、どうなっているのか不安な面もありました。しかし、初代ボスである渡邊科長代理の、冷静沈着ながらも暖かい人柄もあり、スムーズに科としてのまとまりができてきたと思います。あの頃私達は、頻繁に話し合いの時間を持ちました。わからないことがあれば職種を超えて尋ね合い、グループ活動のアイディアを考え合い、活動が終われば反省を出し合い、予定時間を過ぎては話は尽きず、という毎日でした。それぞれが遠慮せず自分の考えや思いを言い合える雰囲気だったことも貴重でした。現在よりも時間的な余裕があったためにできたことですが、あの頃時間をかけて意見を言い合ったことが、現在のリハビリテーション科の土台となっていると思います。最近では皆が忙しくなり、なかなかゆっくりと話し合う時間は持てなくなっています。でも忙しい時こそ、職員同士のコミュニケーションが大切だと思ふ今日この頃です。

まあ私の場合は、お酒なども入りつつのコミュニケーションも非常に素敵だと思ふわけではあります。が…

※**□**に囲まれた文字をつなげて読んでみてください。

総合防災訓練

九月十三日水曜日午後二時から、当センター全体を対象に総合防災訓練を行いました。前日に震度五の地震が発生し、二日目に東京東部荒川河口付近を震源とした震度六弱の南関東直下地震が起これるといふ想定で実施しました。

九月一日には職員の安否確認訓練を行い、当日十三日の昼に通所と病棟で非常食体験訓練を行い、美味しい非常食だと評判だったようです。利用者



ヨーロッパ小児神経学会二〇一七に出席して

ヨーロッパ小児神経学会にて
(フランス・リヨン)

この学会は二〇一七年六月二十日から二十四日までフランスのリヨンの国際都市カンファランスセンターでEPNS二〇一七として開催され、私は小児副腎白質ジストロフィー症児の幹細胞移植

ならびにご家族の方のご協力に感謝いたします。

今回は、事前にどのような被害が起こるかを知らせずに、非常放送を聴いて、いかに動けるかを主眼に置きました。上階での配水設備破損による病棟での水漏れからの避難、一階通所から二階への模擬利用者の避難搬送、ライフライン停止による人工呼吸器の電源確保のための非常用予備電源への接続及びポータブル発電機作動訓練などを行いました。また、いざというとき

院長 加我 牧子

治療後五年以上二十年までの長期予後を検討できた十五名の患者さんについて、治療前後の認知機能をMRI所見と比較した結果を報告しました。日本からは岡崎市こども発達医療センター長中村みほ先生、国立精神・神経医療研究センター神経研究所から井上健先生、出口貴美子先生が出席されそれぞれまとまった報告を出されました。ヨー

避難搬送の様子(通所)



に職員が使用できるように、屋外療育場で消火栓からの放水訓練を行いました。今後とも災害時に備えて訓練を重ねていきますので、ご協力お願いいたします。
(防火・防災対策委員会)

ロッパ以外の米国、アフリカ、中東からの参加者もあり総勢千名を超える大きな学会でした。会長は専門性もあり、シンポジウムなど大会場の講演はてんかんが中心でした。自閉症やAD/HDの演題も多くありましたが、分類があいまいな発表もありました。リヨンの旧市街を中心とした地域は世界遺産に登録され、美しい町並みがあり、美味しい町としても知られ、おいしい食事も楽しむことができました。

摂食嚥下障害看護認定看護師



表彰の様子
左) 宮川 千恵 認定看護師
右) 加我 院長

私は名古屋での六ヶ月の研修を終え、七月に「摂食嚥下障害看護認定看護師」になることができました。私の役割は、利用者様に安全にできるだけ長い期間、食べる楽しみを続けて頂けるよう

支援することだと考えています。そのためには、利用者様の個性を踏まえて、私の学んだ専門的看護を実践していくことが重要だと考えます。食を通して患者様のQOLの向上を目指して力を尽くします。
(三階西 宮川)

第四十三回 日本重症心身障害者学会学術集会



会場にて

九月二十九日、三十日の二日間に行われた第四十三回日本重症心身障害者学会学術集会が「重症心身障害児者のいのちを育む

ころと技うまれてきてよかったと思える社会作り」と題して仙台国際センター(宮城県仙台市青葉区)で開催されました。口演およびポスター発表の計三〇三題が発表されました。当センターからは療育部九題、医局四題、歯科一題、リハビリテーション

ン部一題の計十五題が発表され日常の疑問や問題点が活発に議論されました。数多くの職員が学会に参加し研修されました。来年の第四十四回日本重症心身障害者学会学術集会は当センター主催で開催(東京・船堀)されます。今年以上に盛り上がる学会となりますように。
(副診療部長 荒井)

発達障害合同研修会



研修会の様子
(当センター研修室にて)

八月二日に江東区・墨田区・江戸川区の情緒障害等通級指導学級・特別支援教室の先生方と共に、当センターにて第一回目となる合同研修会を実施しました。前半は医局の野口先生と心理の西山主任で発達障害について講義を行いました。後半はグループワークを先生方と共に実施しました。当

センターからはリハのスタッフも参加し、活発に意見を交換する機会を持つことができました。当センターでも発達障害の受診が増えており、地域の先生方と教育現場と医療現場での違いなど意見をもらうことができ私たちにとても良い機会になったと思います。
(地域療育支援室)

門介
部紹
地域療育
支援室

地域療育支援室は、利用者の皆様や保護者の方からのご相談やお問い合わせへの対応、地域の施設や学校等との連携・支援事業、ボランティア活動の受け入れなど、院内における様々な業務に携わっています。心理では、リハビリテーション科の職員と協力しながら入所の方々の評価や指導を行ったり、急速に増えてきた神経発達障害の方々の支援や幼稚園・保育園や学校など地域施設との連携、乳幼児通所への活動参加

などを行っています。今後も、利用者の皆様や地域の方々のお役に立てるよう、刻々と変化するサービスなどについて情報を得て、日々研鑽を積んでいきます。何かお困りのことがあれば、いつでもご相談ください。
(地域療育支援室)



地域療育支援室スタッフ

ボランティア紹介

青木 克子さん

自分の特技を生かせるボランティアを四つやっています。施設経験のある友人から「踊りや音楽、それも楽しいけれど自分に寄り添ってお話をしてくれたり、私のための時間が心に残っている。」と言われた時、今までやってきた独りよがりのボランティアにプッシュバックを受け、おそらくラストボランティアになる五つ

目の東部療育センターでは利用者さんと寄り添えるようつとめて、十一月で五年目になります。挨拶は先生のギターやキーボードが始まります。テラス散歩の風に季節を感じたり、ねんどや絵の具の工作、今は牛乳パックの和紙ちぎりで年明け年賀ハガキの準備をしています。オレンジエプロンを渡された時の嬉しさを忘れずに今日も三南ちこゆりの皆さんと寄り添ったお手伝いをしていきます。

東部あれこれ

七月から九月の話題です。

【七月】

西日本では大雨が続く中、東京は連日の真夏日。そんな暑い日にもめげず、上半期最後のバスハイイクや公共交通機関を使った外出活動などを元気に楽しみました。
七夕はお楽しみ食の天ぷらととろろ蕎麦を味わい、夜は良く晴れたので、一人ひとりの願いを星に届けることができました。

【八月】

八月は雨模様の日が多く、東京の日照時間は観測史上最短を記録しました。天候が心配される中、何とか花火を楽しむ夕べを実施することができました。

センターでは、特別支援学校の先生の臨床研修を始め関係機関からの実習を受け入れるなど地域への支援に取り組みしました。また、春の慈恵医大に続いて日大医学部の学生体験実習を受け入れました。



【編集後記】

夏の前半は猛烈な暑さが続きましたが、後半になると雨の日が多く、蒸し暑い日が続きました。九州地方では豪雨による河川の氾濫・がけ崩れなど甚大な被害を受けています。被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。今回の被害についても、想定を超えた豪雨により河川の氾濫が起き、洪水の怖さを改めて認識させられました。今後とも危機意識を持って暮らすことの大切さを思い知らされました。

【九月】

台風の影響もあって九月に入ってから不安定な天気が続き、今年はあまり残暑を感じませんでした。学校の新学期も始まり、秋の外出など活動のシーズンになってきました。七日、韓国脳性麻痺福祉会の方々が見察に訪れ、医療ケアの対応に感心して帰られました。今月から十二月まで上智大学看護学生の看護実習が始まりました。三十五名の実習生を受け入れる予定です。また歯科衛生士専門学校の実習生受入れも実施しました。いずれも、将来当センターで働いてくれることを願っています。



上：普通食
下：ムース食
左：使用材料

栄養科

「カルニチンたっぷりラムカレー」

筋量が少ない重症児(者)に不足しがちな栄養成分「カルニチン」を豊富に含んだラム肉をカレーで楽しみましょう。

〇 作り方

① ラム肉は塩・こしょうをしてヨーグルト・カレー粉や香草を加え混ぜておく
② ミシン玉ねぎを飴色に炒め、ミシ

③ そこにラム肉をヨーグルトごと加え、水分が飛ぶ様に炒める
④ カレー粉・トマトピューレ・ウスターソース・コンソメ・ローリエと水を加え、小麦粉とマーガリンを炒めて硬さを調整して二十分程度煮込む
⑤ 最後に塩・こしょうで味を整える

コード	商品名	単価	数量
1174	ミンチ・粉・ラム	30.00	
1270	ヨーグルト(全面プレーン)	10.00	
1922	カレー粉	0.02	
3118	ジャガイロ煮物(汁)	40.00	
1453	玉ねぎ	40.00	
1502	にんじん	30.00	
1504	にんにく	0.20	
1405	しょうが	2.00	
3211	日清サラダ油	3.00	
4800	水	40.00	
1487	トマトピューレ(セソ)	6.00	
1898	ウスターソース(レストラン用)	3.00	
357	明治ツツメ(ガシ)	3.00	
18	小麦粉	10.00	
1922	カレー粉	1.50	
1940	ガラムマサラ	0.10	
1888	食塩	0.70	
1884	チキンコンソメ	0.90	
4745	交差月桂樹の葉	0.10	
4800	水	30.00	

草はここ
わが方
のたいぞ
でりどう
まなら
これから
←ご覧ください

